



浜宮祭



五月祭



引き続き五月宮へ移動。五月宮も御社殿はなく、大きな常緑樹を依代とする神籬祭場で、その前庭に浜宮祭と同じく神饌をお供えし、午前十一時、浜宮祭参列者に加え、江口区長、福岡県立少年自然の家「玄海の家」の関係者ら地元の方々が参列される中、五月祭が斎行された。同宮は釣川の河口に鎮座し、海からの浜風が往時の「濱殿」

当日、高向宮司以下神職四名が神湊に鎮座する浜宮へ出向。浜宮には御社殿はなく、石祠の御神前に海川山野の幸に加え、「赤飯」「粽」「ガメの葉饅頭」「苜蒲酒」など、端午の節句を象徴する神饌をお供えし、午前十時三十分、浜宮祭を斎行。当大社責任役員、氏子会長、地元総代、神湊地区の各区長をはじめ地元の方々が参列された。

# 五月・浜宮祭斎行

風そよぐ五月五日(こどもの日)、恒例の五月・浜宮祭が宗像市江口の五月宮と同市神湊の浜宮でそれぞれ斎行された。



五月寮での直会



## 平成ノ大造営

時満ちて道ひらく

## 余滴

愈々サッカーワールドカップが開幕する。日本はチーム力や組織力、つまり「和」により勝ち進み、本田圭佑選手が「日本のストロングポイント」はチームワークですが、それは生まれ持った能力で、個を高める必要がある」と発言をして話題になった▼神社周辺でも田植えが始まり出した。古来より稲作は一人で行う事が困難なため、地域住民が協力して行ってきた。協力しあうことにより組織力を強め、和の精神を大切に成長してきた民族である▼「和」を大事にするための手段として、住民は神社に集い祭りをを行い、祭りの後には直会を行い、組織力を高めてきた。また家庭においては法事を行う事により、親族のつながりを保つ事が出来ているのである。このように昔から神社やお寺は地域の「コミュニケーション」の場としても大いに利用されてきた▼しかし政教分離の思想が広がり、その場所は公民館へと移行してきた。そこには信仰がないため祭りも衰退し、地域の「和」も希薄になり出したが、潜在能力として未だ持ち合わせている。本田選手は外国でプレーすることにより、改めて日本の和の力に気付かされたのではなからうか。世界一のチームワーク、「和」を持つ日本代表として、ワールドカップでの活躍を期待したい。(幹)

神具・装束・授与品

**井筒**

装束店 〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る  
フリーダイヤル 0120-075-980

福岡店 〒812-0068 福岡市東区社領1-12-10-401  
フリーダイヤル 0120-055-092

授与品店 〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町23  
フリーダイヤル 0120-075-820

木組の家 匠の技

総合建築業 **株式会社 弘江組**

〒811-3406 福岡県宗像市稲元4丁目20 電話(0940)32-2567

を彷彿とさせる心地よい祭典となった。

祭典終了後、五月寮で直会が執り行われ、奉仕者並びに参列者一同、当大社御神木である檜の若葉が敷かれた折敷に盛られた赤飯・がめ煮・膾・粽・ガメの葉饅頭を古式ゆかしく栗箸でいただきながら、神人和楽の一時を過ごした。

稲の成長を予祝する神事でもあるこの五月・浜宮祭が終ると、神郡宗像では田植えの準備が始まり、一面の水田に早苗が影を浮かべながら夏へと木々も緑を深めていく。



平成26年度

# 宗像大社奨学金受給生奉告祭

## 第五十五期を迎え、受給生は延べ八九三人に

四月二十九日(昭和の日)、

奨学金受給生奉告祭が斎行され、本年度の受給生がご神前に参集した。尚、今年度の新受給生十九名で第五十五期生となり、延べ人数は八九三人に



第55期生 19名

のぼる。

当日は宗像・福津両市内より受給生約六十人が保護者とともに参集。午前十一時から昭和祭に参列後、奉告祭が斎行された。有為な人材になる事を御神前に誓ってくれた事と思う。

祭典後は清明殿で選定書授与式と説明会が行われ、高向宮司から宗像大社奨学金選定書が生徒の代表に授与され、担当神職よりこの奨学金の歴史、制定目的、規定、受給方法等についての説明が行われた。その後、生徒一人一人がテ-



昭和祭

### 宗像大社奨学金第55期受給生19名

遠藤 海人 (大島中)	玄 界 高
福崎 陸 ( // )	宗 像 高
嘉村 一土志 (玄海中)	香 椎 高
浅海 菜瑠 ( // )	九州国際大付属高
高橋 敏貴 (日の里中)	宗 像 高
中道 普子 ( // )	折尾愛真高
平野 淳美 (宗像中央)	精華女子高
白川 多聞天 (城山中)	九州国際大付属高
西村 優梨香 ( // )	福 岡 高
上村 華凜 (河東中)	若松商業高
木藤 里菜 ( // )	九産大付属九州高
山崎 大翼 (自由ヶ丘中)	香椎工業高
吉田 愛里 ( // )	玄 界 高
安河内 凌 (津屋崎中)	水 産 高
西本 ひかる ( // )	水 産 高
青野 大輔 (福間中)	宗 像 高
宮 島 葵 ( // )	東海大付属第五高
豊 永 直 (福間東中)	古賀竟成館高
井 上 未雪 ( // )	新 宮 高

マに沿った作文を執筆し、書き終えた生徒から奨学金支給を受け、境内をあとにした。(この作文は「奨学生作文の御紹介」として紙面で掲載します)

当大社の奨学金制度は、昭和三十四年の今上陛下御成婚を奉祝して制定され、翌年の昭和三十五年第一期生として宗像市・郡内の中学校出身者(当時は六中学校)に支給され今日に至っている。現在では宗像・福津市内十中学校より各校二名ずつ選定し三年間支給している。



奨学金受給生奉告祭



選定書授与式

# 氏八満神社 春の例祭斎行

去る四月二十日、当大社が鎮座する田島地区の氏神様・氏八満神社の春祭が厳粛に斎行された。

当日は、早朝の降雨により神輿での御神幸は中止され、御神璽だけの出御となったが、午前十一時、高向宮司と神職

一名により出御祭を斎行し、田島区長を始め氏子等と共に御神璽を当大社・祓舎に設営された御旅所へとお連れした。祓舎にて駐轡所祭を斎行し、祭典終了後には当大社神門前まで御神璽と共に進み、宗像大神様に拝礼し田島公民館へ



出御祭 (氏八満神社)

向かった。公民館にて、館内に安置された神輿へ御神璽を奉安し、頓宮祭が斎行された。祭典終了後には直会を執り行い、午後二時半御神璽を本殿へとお返しする還御祭が斎行され、本年の春祭も恙なく終える事ができた。



駐轡所祭 (宗像大社)



## 平成26年度

### 主基地方 風俗舞保存会 総会開催

五月十六日午後六時より、平成二十六年主基地方風俗舞保存会総会が花田会長以下役員・会員十名出席のもと当大社斎館にて開催された。

始に、主基地方風俗舞保存会の舞歌(破・急)を奉唱し、会長より挨拶を頂いた後、議事に入り、平成二十五年活動報告並びに決算報告、引き続き平成二十六年活動計画案並びに予算案報告を行い、一同より承認をえた。その後花田会長より、現在当大社にて行われている、造営事業への主基地方風俗舞保存会として奉賛を行う旨が立案され、役員・会員一同議論を尽くし、保存会役員・会員の協力を下奉賛を行う事が決議された。



昭和44年4月14日 初めて披露される主基地方風俗舞

## 宗像大社奨学金 受給生作文紹介

### 「奨学金需給生としての思い」

新宮高等学校一年 井上 未雪

私には夢があります。将来、小説家になりたいのです▶本を一冊読むだけで、自分が知らなかった言葉にいくつも出会え、想像したことのない世界を見ることが出来ます。自分の頭の中は自分だけのものです。考えていること、創造したこと、全部私だけが持っているものです。私は、その感覚がたまらなく好きです。そして、それを文章にできる小説家の方々に本当に尊敬しています▶私は昔から運動が得意ではなく、部屋の中で遊ぶ方が断然好きでした。今までは本を読むことが好きになったのはこの事が理由だと思っていましたが、たとえ運動が得意だったとしても、本を好きになっていたらと、今感じています▶私の家はあまり裕福とは言えませんが、人に胸を張って誇れるような母や出会えて良かったと思える友達があります。私が小説家という夢が持てたのも、そうした人たちのおかげです。この素晴らしい奨学金をいただけるのは、決して自分だけの努力だけではないと自信を持って言えます▶これまで支えてくださった方々、また、奨学金という心強い助けを下された方々に恩返しができるよう、小説家になるという夢を実現させてみせます。気持ちを言葉にすることは難しいですが、将来、今のこの気持ちも文章に表せる様な小説家になることをどうか期待してください。

### 「沖ノ島と関連遺産群の世界遺産登録について思うこと」

玄界高等学校三年 中村 真海

私は、沖ノ島と関連遺産群が世界遺産に登録されてほしいという思いと、されてほしくない思いと両方あります▶まず、登録されてほしい理由は、世界の人たちに沖ノ島のことや宗像市福津市の良さを知ってもらえる一つのきっかけになると思ったからです。テレビや新聞などで世界遺産についてのことが載っている記事や特集などを見た友人や学校の先生が「沖ノ島のことを教えて」と声をかけてきたり「大島いいところだね。行ってみたいな」と言ってくれてとても嬉しかった経験があります。やはり地元のことをほめられたらとても嬉しいし、今まで以上に活気あふれる元気なところになると思うからです▶登録されてほしくない理由は、たくさんの方が来てくれるのは嬉しいことですが、今ある自然が壊れていってほしくないからです。世界遺産に登録されたというニュースを以前見て、沖ノ島や宗像市福津市が登録されたらどうなるのか不安になりました。でも、そういった問題がなければ、世界遺産にぜひ登録されてほしいと思います。

# 宗像大社氏子青年会活動記

## 定例総会開催

去る、五月十五日当大社氏子青年会(会長・嶺俊光)の定例総会が斎館において開催された。

総会は、嶺会長を議長に議事審議に入り、事務局より平成二十五年事業・決算報告並びに矢原監事より決算監査報告が行われた。次に当会規約変更の件が審議され、

昨年(の)全国氏子青年協議会加盟に伴い、会員年齢の上限を五十歳から五十五歳に引



き上げ、又一年の役員任期を二年とする旨審議された。次に平成二十六年事業計画案・予算案の説明が事務局より行われ、其々全員一致で承認された。最後に全会員で聖寿の万歳を行い、総会は滞り無く終了した。

大社を中心とした神郡宗像の発展と、誇りある我が国の

伝統を次世代へと伝えるべく結成された氏子青年会も今年で十年目を迎える。会員も五十余名を数え、昨年より全国氏子青年協議会に加盟し、全国氏子青年との交流を深め、徐々に活動の幅を拡げている。

## 福岡県氏子青年協議会 定例総会に出席

五月十一日、柳川の日吉神社における、福岡県氏子青年協議会の定例総会に会長以下役員八名事務局二名が出席し、県内各地域の氏子青年会員等と交流を深めた。



## 第14回 沖ノ島清掃奉仕

去る、四月二十五日、当大社氏子青年会の会員ら約四十名が沖ノ島へ渡島、清掃奉仕を行った。

この清掃奉仕は、年に一度五月二十七日に約二〇〇名に及ぶ一般参加者を受け入れる「沖津宮現地大祭」にあたって実施され、本年度で十四回目となる。

晴天に恵まれ穏やかな波の中、午前八時に鐘崎港を出港、海上を進むこと約二時間で沖ノ島へ到着。直ちに海中で裸を



行い、島の中腹に鎮座される沖津宮へ向かった。

沖津宮にて奉告祭を斎行した後、葦津禰宜より挨拶・説明があり、奉仕作業を開始。本殿周辺の清掃・整備、社務所外壁の塗装補修等、平素勤務している一名の神職では困難な作業を約三時間御奉仕頂いた。

作業後は一同波止場で直会を行って労を労い、帰路は沖ノ島を一周し幽玄な景観を拝しながら夕刻には鐘崎港へ無事到着、本年度の奉仕作業を無事終えることが出来た。

## 博多どんたくまつりに参加

去る五月三・四日に開催された「博多どんたくまつり」に、当大社氏子青年会も参加し、黄色の雑色衣装を身に着け、博多の街を練り歩いた。

初日の三日、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界遺産登録推進活動PRのため、宗像市の市民活動団体・産業団体等、総勢約一五〇名にてパレードに参加、当大社氏子青年会員十四名も要請を受けこれに

加わった。約三十分のパレード中は、推進活動の一環であり九月十三日に、宗像ユリックスで公演が予定されている、市民参加型ミュージカル「むなかた三女神記」の出演者



を中心に振り付け・衣装で世界遺産推進活動が広く知らされた。

# 時満ちて道ひらく 造営日記 ⑦

## 消火用エンジンポンプ舎地鎮祭

現在進められている辺津宮防災施設工事の一環として、消火用エンジンポンプを収納するポンプ舎新築の地鎮祭が五月十日に行われた。

今回の防災施設工事では、辺津宮本殿・拝殿への消火並びに延焼防止を目的とした放水銃が三機設置されるが、併せて消火栓の取替えも行われ、これらに適したエンジンポンプを新設するためにポンプ舎新築の運びとなった。

当日は、施業者の(株)九電工現場担当者並びにポンプ舎建築工事の担当者が参列するなか祭典が執り行われ、工事の安泰が祈念された。



■本殿裏手、末社横に設置された放水銃

## 宗像大社菊花会

### 玄海小・中学校に菊資材を贈呈

去る五月九日、宗像市立玄海小学校体育館にて、今年で十五年目となる恒例の菊資材贈呈式が行われ、一、六年生までの児童九十三名の前で、当社菊担当の神職・巫女から児童代表へ菊資材が手渡された。

同校では情操教育の一環として菊作り栽培に取り組み、地元ボランティア団体「匠の会(会長 小並範義氏)」を始め、地元・PTA・教諭一丸となって

支援している。この趣旨に宗像大社菊花会も賛同し、菊鉢や肥料などを寄贈している。三・四年生は小菊、五・六年生は大菊を、また、中学一年生も昨年より菊作りを始めており、夏休みにも交代で登校し、水かけなどを行い、菊花の世話を通して、命の大切さやおもいやりの心を学ぶ事となる。



十一月には校内菊花展を開催すると共に、当里等を視察し、当大社を参拝された。仮本殿にて高向宮司より挨拶の後、境内や神宝館を拝観いただいた。神宝館拝観の後、隣接する海の道むなかた館も視察し、同館にて昼食会が開催され、女界灘の海の幸に舌鼓を打った。

## 表千家而妙会 参拝

四月十七、十八日の二日間、表千家家元而妙斎宗匠を中心とする数奇者の集い、而妙会の全国大会が福岡の地で開催され、会員ら約一〇〇名が当大社を参拝された。

全国各地より参集した会員らは十七日、福岡市内で総会を行い、翌十八日芦屋釜の

ご参拝頂きました皆様のご活躍をお祈り申し上げます。



大社で行われる西日本菊花大会にも出品される。個性豊かな菊花がこの神郡宗像を彩る秋が待ち遠しい。



御造営奉賛者御芳名 (平成二十六年三月、四月・順不同・敬称略)
ご賛同賜りました皆様に、御礼申し上げます。

宗像大社氏子会 御造営奉賛者御芳名 (平成二十六年四月・順不同・敬称略)
ご賛同賜りました皆様に、御礼申し上げます。

1,000,000円

福岡市 (有)牧之内 エンタープライズ

300,000円

鹿児島市 牧口 玲子
葛飾区 長谷川正江
福岡市 宮坂 芳信

500,000円

周南市 遠石八幡宮

10,000円

足立区 鈴木 光良
宇美町 古屋 昭夫
金沢市 藤田戦略研究会

300,000円

福岡市 (株)松崎組

木城町 壹岐 久寿
北九州市 北野征四郎

宗像市

合資会社伊豆本店

久留米市 胸形 和郎
大至産業(有) 大野征四郎

100,000円

岡崎市 鈴木 宗雄
すさみ町 河内 昭男

福岡市

(有)石津中央薬局

倉元 亮児
寺島 俊基
橋本 定雄
織幡神社

宗像市

安部 照生
河辺 紘
佐藤 千里
清水 正敏
養父 守

5,000円

茨木市 占部 博
小郡市 井上美枝子
鹿沼市 大出 史恵
神戸市 四鬼 圭子
玉野市 豊田 昌司

(医)YanagaClinic

福岡市 柴村 雄
宮崎市 谷川眞喜雄
横浜市 江波戸美奈

30,000円

糸島市 國分 一美
鎌ヶ谷市 竹内千代子
福岡市 井上 泰博

2,000円

糸島市 國分 浩一
岡垣町 松永 文孝
鹿沼市 大出 菊栄

宗像市

時津町 小坂 達也
福岡市 小田 康敬
武蔵野市 藪 翔太
宗像市 滝口 英子

宗像市

安部 健児
安部 博充
伊熊 英明
池園 裕之
石川 秀雄
石谷 圭介
石谷 財一
石谷 光年
石谷 泰子
石橋 悟
石橋 茂敏
石橋 龍郎
石橋 良枝
伊藤 尊王
井上 義鋪
入江 和久
入江 宏
岩瀬 清美
岩瀬 房枝
魚住 俊彦
梅田 泰睦
占部 勉
占部 文吉郎
江口 哲翁
大坪 誠
大庭 剛明
小川 八千代
奥蘭 睦
小田 進
梶原 清仁
川合 幸子
北崎 恒雄
北崎 直也
北崎 信明

北野 正
北野 虎喜
楠 良太
小林 了
権田 丑美
権田 カズエ
権田 要助
権田 キク子
権田 邦雄
権田 繁美
権田 タマ
権田 トキワ
権田 能教
権田 ハツエ
権田 日出人
坂下 長男
貞兼 弘之
貞兼 泰裕
七田 清光
七田 丈治
七田 武喜
篠原 武利
下田 弘紀
宗岡 美恵子
白石 勝年
眞谷 敏史
杉山 茂
高崎 弘美
高野 照弘
高野 好幸
田島 誠
田島 良人
田尻 力子
田村 高一
戸波 一昌

刀根 孝幸
永島 傳
永島 敏行
中野 武和
中村 弘樹
中村 良治
中山 篤信
中山 純一
灘辺 葦男
繩田 允彦
繩田 君子
灘辺 定義
花田 和義
花田 キクノ
花田 金時
花田 章三郎
花田 頼三
花田 土江
森 泰行
森 泰生
八尋 千恵子
八尋 正男
八尋 三春
山口 三春
山下 和政
吉住 弘
吉田 正友
吉田 好典
吉田 トラム
吉田 信喜
吉田 信喜
廣橋 啓一
廣橋 公子
廣橋 一幸
廣橋 善吾
日並 芳洋
日南 政隆
久田 良則
久田 あや子
浜田 義男
浜田 政明
花田 泰彦
花田 正路
花田 伸子
森 泰生
森 恵
安部 保孝
安部 克博

深田 シゲ子
深田 恒昭
深田 虎重
船越 和昭
星川 良一
本田 佐助
松本 幸夫
松本 佑太
松本 洋
松本 礼子
嶺 博文
宮崎 博幸
宮本 秀臣
宗像 陸奥子
村田 厚子
村田 政裕
元岡 紀子
森 トモエ
安部 克博
安部 保孝
石田 富彦
石橋 元彦
磯野 美治
磯野 康子
磯野 幸男
今村 直喜
上妻 直喜
上妻 傳
上妻 英明
上妻 守人
魚住 勲
占部 アサ子
占部 サ子
占部 敏成
大池 幸夫
大塚 浩二
城戸 詩妻
桑田 茂子

福岡市

高武 博和
堺 信夫
酒井 宏幸
坂田 一彦
坂田 憲治
坂田 正美
坂田 和文
篠崎 清
白石 厚海
白石 凡夫
高田 和弘
常軒 清巳
常軒 伸規
中村 昭男
中村 文志郎
中村 隆
平田 弘幸
藤村 松江
増田 和代
増田 勝博
増田 裕俊
増田 義則
三國 秀和
光吉 アキ
宗俊 アキ
村井 賢二
村井 徳文
安武 則久
安武 清文
八波 サダヨ
八波 シズカ
八波 敏則
八波 浩暢
八波 連

(続)

# 決の寄物

289

いしいただし



先月号で定遠館と書いたつもりが天遠館となっていた。校正でも気がつかなかった。深くお詫びいたします。

一二〇年ほど前の日清戦争時の清国最強の軍艦であった。この姉妹艦は鎮遠である。艦名の定遠の遠は外国を意味し、日本を意識したものである。鎮遠の鎮はずめるで、二隻合わせると日本を鎮定する意味という。二度にわたって来航、日本人に驚きと恐怖心を与え、また来航した長崎では

騒動を起し、死者や逮捕者も出している。

日清戦争は明治二十七年(二八九四)八月一日、日清が宣

戦布告をして始まった。朝鮮半島と中国、黄海をはさんで山東半島、遼東半島に及ぶ範囲で戦闘が行われた。宣戦布告前の七月には、既に日清の前哨戦が行われている。

七月二十五日に豊島沖海戦。陸上では成歓・牙山の戦いが行われ、日本が戦闘を有利にすすめている。九月には平

壤の戦いで清軍を破り、九月十七日には黄海海戦に圧勝している。

定遠館の扉

日本は艦船十二隻、乗員三三三一名、大口径砲十一門、中口径砲二〇九門、艦の平均速度十六・三ノット、対する北洋水師は艦

艇十四隻、乗員二二〇三名、大口径砲二十一門、中口径砲一四二門、平均速度は十四・三ノット。

定遠、鎮遠の巨艦、大口径砲は操作に時間がかかり、発射の反動も大きく、命中度も低かった。黄海海戦で日清両艦が激しい海戦を行ったが小型で連射がきき、艦の速力があつた、日本が圧勝している。

この海戦で、定遠に一五九発、鎮遠に二二〇発、来遠に二二五発の命中弾を与えた。ただ日本艦も「三景艦」の松島、橋立、嚴島は三十二・五センチ砲を四、五発しか発射出来ず、三艦の命中弾は一発もなかつた、というから小型艦の活躍が光っている。この海戦は五時間にわたって砲撃戦が行われ、清国側は靖遠、経遠、揚威、超勇が撃沈され甲甲は大破して擱座している。不沈艦・旗艦である定遠と来遠、平遠

は大破。鎮遠、致遠と共に、艦上の構造物が破壊され、戦闘能力をなくしている。日本側は鎮遠の三十二・五センチ二発を受けた旗艦松島に多数の死傷者がでた。この時、甲板におりた副長の向山慎吾少佐は敵弾を受けた頻死の三浦虎次郎水兵が「定遠はまだ沈みませんか」と問いかけた。少佐は「定遠はもはや戦闘不能だ」と答えると、水兵は満足そうに笑みを浮べて絶命したという。

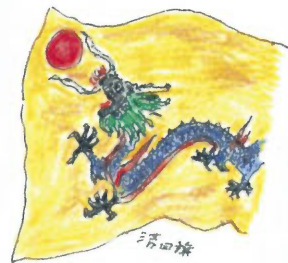


定遠、鎮遠

葉は短きも、皇国を思う国民の、胸にぞ長くするされん」これは小学校唱歌にもなった。威海衛海戦では水雷艇の活躍で、定遠は大破着底、鎮遠も損傷を受けた。北洋水師は水雷艇の攻撃でとどめをさされたといえよう。

この話を聞いた歌人の佐々木信綱は「勇敢なる水兵」の歌詞をつくった。「煙も見えず雲もなく……まだ沈まずや定遠は、この言

丁汝昌の片腕だった鎮遠の艦長 林泰曾は自決、定遠の艦長 劉步蟾は艦に火薬を仕掛けて爆破後拳銃で自決、丁汝昌も降伏を申し出た後、毒薬を飲んで自殺した。かくて北洋水師(艦隊)は壊滅した。定遠の鉄扉には赤く錆びているが、この艦はドイツ製で良質の鉄が使われているためか、錆びてボロボロに剥離することなく残っている。鉄板のところどころに砲弾の穴が残り、海戦のすさまじさを訴えている。



海軍旗

参考文献・わが帝国海軍の興亡(阿部三郎)・帝国海軍の真実(学研パブリッシング)・歴史街道日清戦争(PHP研究所)

第六三四回

宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日メット



花見が浜 佐藤 純一

打倒来た弥勒到来幕府あり庶民泣かせの日精製粉

詠みたいことは何なのかが読者にも分かるように、言葉を整理しましょう。

宗像市 日の里 孔雀王

神代に八岐大蛇出現し敵き殺した素盞鳴尊

この神話を選び詠んだのはどんな感情からかが、歌の中で分かると良いのだが。

うきは市 浮羽町 向 則正

孫呉れしバレンタインの小さき箱朱き花柄捨てがたく持つ

小箱の描写から孫への愛情がよく伝わる。初句には字余りでも助詞が欲しい。

北九州市 八幡西区 豊田 光子

過ぎし日はみな淡々となりゆくに棚田彩るシバザクラの花

色鮮やかな芝桜の花に、逆に過去のできごとの遠さを思う作者か。静かで美しい歌。

宗像市 土 穴 山本 静子

待合室ではかりし吾の血圧をナースは左手の甲に書きいる

ナースの行動が生き生きと描かれ、その場の光景が目に見えるようだ。

宗像市 多 禮 早川 祥三

潮騒の響に育つしおキャベツ若松の芽に甘いささやき

へしおキャベツはブランド名か。この名が効いているので、下の句もキャベツの描写に集中して。

福津市 若木台 山崎 公俊

朝じめるさみどりの木々ふくよかにいよよ緑を産まん静けさ

木々の瑞々しさが詠まれ気持ちが良い。初句・二句(露をおく朝の木々の)に。

北九州市 戸畑区 田中ハツセ

吉野山京の桜も昔のままテレビに見つつ吾は老いたり

以前と変わらぬ桜に、過ぎた歳月を思い、老いを静かに受け容れる作者だろう。

宗像市 池田 森 龍子

時間かけ煮込みし春の若芽の莖素直に旨し弱まりし歯に

食へる喜びが詠まれ、気持ちの安らぐ歌。結句は(歯の弱き身に)。芽は若布では？

北九州市 門司区 北野カズミ

語りあふ言葉少なく会へばただ母の手や背をさすりて過す

無言でも気持ちが通じる作者と母。結句から、母は高齢が療養中かもしれない。

福津市 星ヶ丘 佐々木和彦

なめらかにただなめらかなになる砂が波に洗われ海へと傾ぐ

良い歌だが語順を変えて(寄る波の洗う砂浜なめらかなにただなめらかに海へと傾ぐ)。

宗像市 田久 巻 桔梗

あたらしき健康基準さだめられものぐさのわが健康人となる

健康基準が以前よりも緩くなったことを詠み、鋭い。四句は(吾が)と漢字に。

福津市 若木台 野間 精一

黄の花と白の花との山吹が揃ひて咲けり妻の誕生日今日

夫人への愛が籠る歌。字余り解消のためへわが妻の誕生日

宗像市 日の里 大和美由紀

萌え出づる青青とした浅葱をたつぷり入るる今朝のみそ汁

浅葱の香がしそなみそ汁の歌。初句は(萌え出でし)四句へ(入るる)に。

◆選者詠

金曜はセールス電話がよくかかり受話器おく間に鍋ふきこぼる

顔よりも手の甲さきに日焼けせり働き者の右手とりわけ

第六〇七回

俳句作品集

宗像市 武 丸 白土 凌一

春深き大空舞わん小鳥かな

宗像市 日の里 石松 弘次

温め酒喉を潤す夕餉かな

宗像市 多 禮 早川 祥三

日の杜の座に雅の舞降りる

お詫びと訂正

五月号(第639号)5ページ掲載の「ラジェンドラ・パチャウリ氏参拝」記事に誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。(誤) 中川雅治衆議院議員 (正) 中川雅治参議院議員

6月祭事暦

1・15日 月次祭 午前10時~ 高宮祭 第二宮・第三宮祭 引き続き 宗像護国神社祭 月命日祭(1日) 巡 拜(15日) 午前11時~ 総社祭 浦安舞奉奏(1日) 豊栄舞奉奏(15日)

編集後記

「本屋大賞受賞」という言葉に惹かれ、「村上海賊の娘(村上水軍を題材にした長編歴史小説)を、文庫本にするのを待ちきれずに購読してしまいました▼読み始めると非常に面白く、あつと言つ間に読破。読み終えた充足感に浸りながら、いつもながら気にも留めない最後の数ページをめくっていると、参考文献がびっしりと書いてあり、これまたあつと驚きました。この本を書くのにこんなに読んだんだ…、難しそうな歴史の本ばかり…、一字一句、大切に読まなければ!作家さんの凄さとともに自分がいかに無知かを思い知らされました▼無知な小生であります、時には、苦手な歴史の本を紐解き、一字一句間違いないように当該の編集を進めてまいりますので、今後とも余すことなく(最後の編集後記まで)ご愛読下さい…。(鈴)

発行所 宗像大社社務所・宗像会

住所 千八一一三五〇五

福岡県宗像市田島三三三

電話 (〇九四〇)六一三三二二(代)

発行人 葦津幹之

編集人 大塚宗延・鈴木祥裕

毎月1日発行 定価1年送料共 1,000円